

福井県嶺南地域流域検討会【第25回】 議事概要

日時：平成26年3月18日 14:30～17:00

場所：小浜土木事務所 大会議室



◆委員からの主な意見

1. 規約の改定について

- ・河川整備計画の点検とは具体的に何をするのか。
→河川改修の進捗状況や多自然川づくりの取組状況、治水計画などについて確認し、委員の意見を伺いたい。
- ・河川整備計画という名称について、「整備」という言葉は合っていないのではないか。
ほかに適切な言葉があれば変えてはどうか。
→河川整備計画は法律用語になっており、使わなければならないのでご理解いただきたい。

2. 北川水系河川整備計画（県管理区間）の変更について

- ・昭和62年の全体計画ではセミバック堤方式が採用されているが、今回の整備計画もセミバック堤方式を採用しているのか。また水門は整備するのか。
→今回の整備計画でもセミバック堤方式を採用しているが、水門の整備は位置付けていない。ただし、将来計画としては水門設置も想定しており、今後、国土交通省との調整が必要。
- ・今回の整備計画では改修区間が縮小されているが、それでよいのか。
→今回の台風18号で被害を受けた箇所までを早急に手当てしたいと考えている。

野木川の破堤は北川の背水の影響が大きかったことから、この区間を対象としている。また、北川本川との河床の高さ関係もあり、当面の暫定的な措置として整備計画に位置づけている。

- ・野木川は北川水系の中でコイ科魚類が一番多くて繁殖しやすい環境である。また、北川では過去にアカヒレタビラが確認された実績があり、野木川でも生息している可能性がある。野木川は、本川からの繋がりの中で、コイ科魚類やタナゴ類にとって非常に良好な環境を形成しているのではないかと思う。このため、工事前に十分な魚類調査を実施してほしい。また泥が堆積しやすい、ヨシも生育し繁殖しやすいといった環境をうまく再現してやることが重要だと考えられる。
 - 工事前に魚類調査を実施する。
- ・河川整備計画では今後 30 年で実施する計画といわれているが、野木川の改修はここ 1～2年で実施するのか。また、この整備が完了したら、上流側は以降 30 年間何も整備しないようにも受け取れるがどうなのか。
 - 整備計画に位置付ける 1,175mの区間については平成 27 年までに実施する。また、上流の改修については、北川の改修や堰の改築が必要なため現段階では難しいと考えているが、河川整備計画の点検を定期的実施していく中で、検討していきたい。

3. 嶺南地域の河川整備計画の点検方法について

- ・大津呂ダムについては点検しないのか。
 - 大津呂ダムは完成済みだが、環境調査の結果などを報告していきたい。
- ・勾配の急な河川は魚道が設置されていても機能していないことがある。北川は国、県管理に分かれているが、流域として対応したほうがよい。
- ・調査しただけで終わることが多く、評価や次のステップがないことが多い。どのように環境を戻していったらよいか、評価基準を用意した方がよいのではないか。
 - 九頭竜川水系の河川整備計画を点検した際は、改修前の良い状態がどの程度戻ってきているかという観点で多自然川づくりについて評価した。更に工夫は必要だと思うが、改修前の自然環境が良好な場合、このような方法も有効だと考えている。